

2023年度 京都大学大学院農学研究科博士後期課程 編 入 学 生 募 集 要 項

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者、あるいは2023年3月末までに該当する見込みの者

- (1) 修士の学位又は修士（専門職）若しくは法務博士（専門職）の学位を有する者
- (2) 外国において、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程（本学大学院の修士課程又は専門職学位課程に相当する課程に限る。）を修了した者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校等において、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者であって、本学において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（注2）
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

※1. 受験希望者は、事前に必ず志望する募集専門種目の教員と連絡を取ってください。

※2. 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所、研究機関、企業等において2年以上の研究実績があり、当該研究の成果等により本学大学院修士課程修了者と同等以上の学力があると認められる者であること。

※3. 上記(6)、(7)、(8)により出願する者は、事前に出願資格の審査を受けなければなりません。この資格で本年度出願する者は**農学研究科大学院教務掛**（以下、大学院教務掛）の窓口へ申し出てください。

2. 募集人員及び学力試験科目

(1) 募 集 人 員

専 攻	募 集 専 門 種 目	募集人員
農 学	作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、雑草学、栽培システム学、品質設計開発学、品質評価学、植物生産管理学	各専攻（専門種目）で若干名
森 林 科 学	森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林生態学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、森林水文学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林情報学、森林育成学、材料生物学、生物機能材料学、循環材料創成学、居住圏環境共生学、木質構造科学	
応 用 生 命 科 学	細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学	
応 用 生 物 科 学	植物遺伝学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、里海生態保全学	
地 域 環 境 科 学	比較農業論、熱帯農業生態学、土壌学、微生物環境制御学、生態情報開発学、施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、放射線管理学、農業システム工学、フィールドロボティクス、生物センシング工学	

専 攻	募 集 専 門 種 目	募集人員
生物資源経済学	農業食料組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林経済政策学、比較農史学、農学原論	各専攻（専門種目）で若干名
食品生物学	生命有機化学、食品生理機能学、農産製造学、生物機能変換学	

専攻の概要については、別添「**農学研究科概要**」を参照してください。

(2) 学力試験科目

(イ) 英語

提出された TOEFL 等の英語スコアを換算して採点します。

(ロ) 専門科目（志望の専門種目並びにそれに関連する分野）

(ハ) 口頭試問

(3) 入学者選抜方法

- ① 入学者選抜は、出願書類の内容及び学力試験の成績により行います。
- ② 学力試験の各科目については、それぞれに合格基準を設けており、合格するためには全科目においてその基準を満たす必要があります。
- ③ 志望する専門種目の志願者が多い場合は、当該専攻の合格最低点を上回る得点であっても、不合格となる場合があります。

3. 出 願 書 類

下記の出願書類(1)、(2)、(6)の様式は、本研究科ホームページよりダウンロードし、各自で印刷した用紙（A4 サイズ）を出願書類として使用してください。

(1) 入 学 願 書	所定の用紙に、必要事項を本人が明記してください。 半身正面向きで出願前3カ月以内に単身撮影した同一の写真（無背景）を、「写真票」及び「受験票」の所定欄に貼ってください。
(2) 入学検定料収納証明書 (所定台紙に貼付)	入学検定料 30,000円 振込期間 2022年11月21日（月）～ 2022年12月9日（金）【期間外取扱不可】 （納入方法等） 京都大学 EX 決済サービスにより上記の期間に入学検定料を納入してください。 ①詳細は別紙「入学検定料支払方法」に従って納入してください。 ②入学検定料の他に支払い手数料（650円）が必要となります。 ③必ず「納入者名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえ納入してください。 （出願者以外の名義で納入された場合、願書を受理できない可能性があります。） ④納入後、収納証明書を印刷し、「入学検定料収納証明書貼付台紙」に貼り付けて提出してください。 ⑤願書受理後の入学検定料は、返還できませんのでご注意ください。 【2023年3月本学大学院修士課程修了見込みの者は不要。】 （入学検定料の免除） 2011年3月に発生した東日本大震災、2016年4月に発生した熊本地震、2018年7月豪雨、2018年9月に発生した北海道胆振東部地震、2020年7月豪雨による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。 詳しくは、11月25日（金）までに、大学院教務掛まで問い合わせてください。

(3)英語力検定試験成績表	出願開始日から2年前(2023年1月実施の入試の場合は、2020年12月5日)以降に受験したTOEFL-iBTまたはIELTSの英語スコア(原本)を提出してください。 詳細は、下記の TOEFL等英語スコア (TOEFL-iBT、IELTS) の提出に関する注意事項 を参照してください。 ※本研究科博士前期課程(修士課程)修了者は、上記スコアの提出は必要ありません。
(4)修士課程の成績証明書 及び 修了(見込)証明書	出身大学院(研究科)が作成したものを提出してください。 【出願資格(6)、(7)、(8)に該当する者は不要。】
(5)修 士 論 文 概 要 書	A4横書き1,000字以内で作成し、志望専攻・専門種目・氏名を付記してください。 【出願資格(6)、(7)、(8)に該当する者は不要。】
(6)あ て 名 票 受 験 票 送 付 用 封 筒 合 格 通 知 送 付 用 封 筒	・あて名票は所定の用紙を使用してください。 ・あて名票の「①受験票送付用」及び「②合格通知送付用」を長形3号封筒(120 mm× 235 mm)に貼り付けてください。 封筒は各自で準備してください。 ・受験票送付用封筒には254円分の切手(特定記録料金)を貼ってください。

(注) 外国人留学生は、上記以外に提出していただく書類がありますので、**大学院教務掛**まで申し出てください。

TOEFL 等英語スコア (TOEFL-iBT、IELTS) の提出に関する注意事項

1. 各自で TOEFL-iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) (以下、IELTS) の申し込み手続きを行い、受験してください。TOEFL-iBT および IELTS テストの受験に必要な費用は各自で負担してください。
2. TOEFL-iBT の **Test Taker Score Report** の原本または IELTS の公式成績証明書の原本 (いずれもコピー不可) を出願時に提出してください。スコアの公開が通常より数週間遅れる場合がありますので、余裕をもって受験してください。
3. 提出したスコアの原本は受験票とともに12月中旬に受験者に返送します。
4. TOEFL-iBT、IELTS をあわせて複数回受験している場合、そのうちいずれか1つのスコアを提出してください。なお、TOEFL iBT のスコアは、MyBest スコアは使用せず、Test Date スコアを使用します。
5. 出願開始日から2年前(2023年1月実施の入試の場合は、2020年12月5日)以降に受験した TOEFL-iBT、IELTS テストのスコアに限り提出が可能です。団体試験用の TOEFL ITP のスコアは受け付けないので注意してください。
6. 出願時に TOEFL-iBT、IELTS のスコアの原本の提出が間に合わない場合は、まず、その旨を明記した書面および Web 上のスコア確認ページのコピーを提出してください。次に、原本とその返送用封筒(長形3号の封筒に519円分の切手を貼り、返送先住所を記載したもの)を2023年1月20日(金)必着で持参または郵送「書留」により提出してください。(持参の場合、返送用封筒は不要です。)2023年1月20日(金)までに原本が間に合わない場合は、同日までに大学院教務掛へ相談してください。
7. TOEFL-iBT、IELTS のスコアについて、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消します。
8. 英語を母語とする者及び母語とはしないが英語で大学教育を受けた者は提出を免除する場合がありますので、11月25日(金)までに大学院教務掛まで問い合わせてください。
9. 出願要件について
TOEFL-iBT スコアが55点以上、IELTS スコアが4.5以上のうち、少なくとも1つの要件を満たす者。

4. 出 願 手 続

- (1) 出願者は、前記の出願書類を、出願期間中に提出してください。
なお、郵送の場合は、封筒の表に「博士後期課程編入学願書」と朱書し、必ず「書留」にしてください。

提出先：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学研究科大学院教務掛

- (2) 出願資格(6)、(7)、(8)により出願する者は、次の書類を2022年11月25日（金）までに大学院教務掛に提出し、指示に従ってください。

[出願資格(6)による者]

- ① 出願資格審査申請書(所定用紙)
 - ② 博士論文研究基礎力審査に相当する審査を受け合格した、機関の長による証明書類
 - ③ 博士論文研究基礎力審査に相当する審査の方法及び合格基準を示す資料
 - ④ 出願者が履修した博士前期に相当する課程（科目一覧、科目概要）及び成績証明書
 - ⑤ 出願者が履修した全ての中等・高等教育課程の概要
- なお、口頭試問等（必要に応じ専攻分野と幅広い関連分野の専門的知識・能力を評価するための筆記等による試験）により出願資格審査を行います。日時については、おって連絡します。

[出願資格(7)による者]

- ① 出願資格審査申請書(所定用紙)
 - ② 大学卒業証明書及び成績証明書
 - ③ 業績調書(所定用紙)
 - ④ 研究従事内容証明書(所定用紙)
- なお、口頭試問により出願資格審査を行います。日時については、おって連絡します。

[出願資格(8)による者]

- ① 出願資格審査申請書(所定用紙)
- ② 最終出身学校卒業証明書及び成績証明書
- ③ 業績調書(所定用紙)
- ④ 研究従事内容証明書(所定用紙)

なお、口頭試問により出願資格審査を行います。日時については、おって連絡します。

- (3) 障害等のある者で、受験上若しくは修学にあたっての配慮を希望する場合は、事前に大学院教務掛に申し出てください。

5. 願 書 受 理 期 間

2022年12月5日（月）から12月9日（金） 午後5時まで（必着）。

郵送の場合も含め、一切の理由を問わず、期限後の出願は受理しません。

ただし、2022年12月7日（水）以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

6. 試験日程及び場所

月 日	時 間	試 験 科 目	場 所
2023年 1月21日（土）	16:00～18:00	専門科目	京都大学大学院 農学研究科 京都市左京区 北白川追分町 (市バス「京大農学部前」下車)
2023年 1月22日（日）	13:00～17:00	口頭試問	

7. 合 格 者 発 表

2023年1月26日（木）午後5時頃、本研究科ホームページに掲載し、同時に合格者へ合格通知書を発送します。電話による照会には一切応じられません。

http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/admission/div_adm_info



8. 入学料及び授業料

入 学 料 282,000円 ※入学時に改定されることがあります。
【ただし、2023年3月本学大学院修士課程修了者は不要。】
授 業 料 年 額 535,800円 ※入学時、在学時に改定されることがあります。

9. 注 意 事 項

- (1) 専門種目の選定にあたっては、研究科概要を参照のうえ、**必ず事前に志望する専門種目の教員と連絡を取ってください。**

なお、専門種目の選定にあたって不明な点があれば、**大学院教務掛**にお問い合わせください。(TEL. 075-753-6014)

- (2) 願書等の訂正は、該当部分を＝線で抹消し、その上部に記入してください。
- (3) 試験室や試験に関する指示は、1月20日（金）午前9時に本研究科ホームページに掲載しますので必ず見ておいてください。
- (4) 企業・官公庁・研究機関等に在職の者は、編入学試験に合格しても、退職又は休職しなければ入学できません。
- (5) その他
- (a) 本研究科博士後期課程では、(1)フルタイムの有職者、(2)育児又は親族の介護を行う必要がある者、(3)身体等に障害を有する者を対象に、標準修業年限(博士後期課程3年)を超えて一定の期間(上限6年間)にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することを認める長期履修制度を導入しています。希望者は、詳細について大学院教務掛にお問い合わせください。(TEL. 075-753-6014)
- (b) 出願手続後は、いかなる事情があっても出願書類記載事項の書き換えはできません。
また、入学検定料の払い戻しはできません。
- (c) 出願者に対する宿泊施設などの紹介・斡旋等はありません。
- (6) 個人情報の取扱いについて
出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報、①入学試験の実施、②入学手続き、奨学金制度等、③入学者の受入準備等の目的において利用します。
- (7) 災害時等の学力試験の実施について
雪・地震等により、学力試験日程への影響が懸念される場合は、本研究科ホームページから実施についての告知を行います。

2022年11月

京都大学大学院農学研究科

コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ（セブン-イレブン・ローソン・ミニストップ・ファミリーマート・セイコーマート・デイリーヤマザキ）、クレジットカード、金融機関ATM、ネットバンキングを利用して24時間いつでも支払が可能です。

1 Webから申し込み

以下のURLにアクセスし、一覧から本学を選択後、画面の指示に従って申込みに必要な事項を入力してください。

<https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/agr/>

2 申込内容の確認

受付番号（受験番号ではありません）と**お支払に必要な番号**が表示されるのでメモするか画面を印刷してください。
なお、個人情報入力画面で入力したメールアドレスとパスワードは収納証明書を表示するときに利用します。

3 お支払い

お支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

コンビニエンスストア（30万円未満のお支払い）

セブンイレブン 	ローソン ミニストップ (Loppi) 	ファミリーマート (マルチコピー機) 	セイコーマート 	デイリーヤマザキ 	
レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、プリントアウトした【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えお支払ください。 ※プリントしなかった場合は、番号を伝えるのみでOKです。 マルチコピー機は使用しません	各種サービスメニュー	代金支払い/チャージ (コンビニでお支払い Payment/Charge)	レジで店員に 「インターネット支払い」と伝える	レジで店員に 「オンライン決済」と伝える	本人確認のため、クレジットカードに記載されている情報を入力しますので、支払前にクレジットカードを準備してください。 支払い方法は一括払いのみです。 クレジットカードの利用限度額を確認した上で利用してください。
	各種代金・インターネット受付・スマートビットのお支払い	番号入力画面に進む	「オンライン決済番号」を入力		
	各種代金お支払い	「お客様番号」を入力			
	マルチペイメントサービス	「確認番号」を入力	レジにて入学検定料を現金にて支払う		
	「お客様番号」を入力	注意事項を確認			
	「確認番号」を入力				
出願情報が正しければ「確認」「印刷」ボタンを押す 端末より申込券が出るので30分以内にレジにて入学検定料を現金にて支払う					

金融機関ATM【Pay-easy】

以下の金融機関でPay-easyマークの付いているATMでお支払いができます。
1回のお申込につき、現金では10万円未満、キャッシュカードでは100万円未満のお支払いが可能です。

（利用可能な金融機関の一例）

- ・ゆうちょ銀行
- ・みずほ銀行
- ・りそな銀行/埼玉りそな銀行

■支払い可能金融機関は下記ページの「ATM利用可能一覧」を確認してください。
http://www.well-net.jp/multi/financial_list/index.html



「税金・料金払込み」又は「Pay-easy」を選択

「収納機関番号」「お客様番号」「確認番号」を入力

現金またはキャッシュカードを選択して、入学検定料を支払う

ネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協などのネットバンキングを利用することができます。事前に金融機関にて申し込みが必要です。
また、楽天銀行、PayPay銀行、auじぶん銀行、住信SBIネット銀行でも支払うことができます。事前に金融機関にて口座の開設が必要です。

Rakuten
楽天銀行

au じぶん銀行

PayPay 銀行

NEOBANK
住信SBIネット銀行

お支払いおよび申込内容のご確認画面を開く

[ネットバンキングでの支払に進む]ボタンを押す

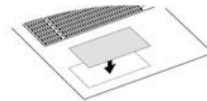
ネットバンキングの契約をしている金融機関を選択し、ログインする

4 出願書類への収納証明書貼付

お支払いおよび申込内容のご確認画面から収納証明書を印刷して、必要な部分を切り取り志願票の所定の位置に貼付してください。必要書類と同様に郵送してください。



①必要な部分を切り取り、



②出願書類の所定の場所へ貼付する。

事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。

農学研究科における入学受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

農学とは、人類が地球上でいかに豊かで持続的な営みを確立して存在できるか、という最も重要で根源的な課題に立ち向かい、最先端の基礎研究によって次の時代を支える「知の基盤」を築く学問領域である。農学研究科では、「生命・食料・環境」をキーワードとして21世紀における地球規模の重要課題である、資源、エネルギー、地域社会、情報、生活、健康、文化等にかかわる様々な課題に取り組んでいる。農学研究科は7専攻から構成され、それぞれ異なるアプローチから人類の生存にかかわるこれらの課題に対処し、人類の福祉の向上と持続的な繁栄に貢献することを目指した農学研究と人材育成を行っている。したがって、本研究科では、専門分野を学ぶために以下のような資質を持つ学生を求める。

1. 幅広い視野と十分な基礎学力をあわせもち、かつ高い倫理性と強固な責任感を身につけた人。
2. 農学研究を通じて、社会の発展に貢献するという意識の高い人。
3. 研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢にチャレンジする意欲と研究遂行能力のある人。
4. 国際的視野に立った高いコミュニケーション能力を有する人。

農学研究科博士後期課程

博士後期課程では、修士課程で求める学生像に加えて、農学の研究や関連する専門的な仕事に従事することを目指し、研究においてリーダーシップが発揮できることを求める。アドミッション・ポリシーを実現するため、内部進学者以外の一般学生や社会人を対象として、英語や各専攻の専門知識を評価する筆記試験、修士論文の評価やこれに関連した口頭試問を組み合わせた入学試験を実施する。私費外国人留学生については、専門科目の筆記試験と口頭試問による入学試験を実施する。いずれの場合も、評価方法の比重等詳細については、募集要項に明示する。

なお、各専攻の専門知識の筆記試験と口頭試問については、以下に掲げる各専攻の人物像のもとで入学試験を実施する。

【農学専攻】

農学専攻は、人類が直面している食料・環境問題や地域固有の農業問題の解決に向けて、高度な専門知識と学際統合能力をもつ人材育成および新しい技術の創成を目標に、作物の生産と利用にかかわる分子・細胞レベルから個体・群落・地域生態系レベルに至る農学の幅広い領域について教育・研究を行っている。

先駆性の高い研究を通じて、新しい知識の創造、新技術の開発および次世代の農学を切り拓きうる高度な研究者・技術者・教育者の育成を目指す。それに求められる人物像は次のようである。

1. 農学関連諸科学に確固とした基礎知識をもち、かつそれらを統合して作物の生産と利用にかかわる知の創造や新技術の開発を行い、もって人間社会の福祉に貢献する意欲のある人。
2. 日々進歩する農学関連諸科学の中で生ずる新しい学際的な研究領域に果敢にチャレンジしようとする人。
3. グローバルな視座をもち、開発途上国の食料・環境問題にも関心が高く、研究・教育を通じて

国際貢献を志す人。

【森林科学専攻】

森林科学専攻は、人類の健康かつ快適な生活環境を、森林を中心とする多くの生物との共棲によって維持し増進することを目指している。研究対象を空間的視点で捉えると、人間が日常的に利用するエネルギー、衣料、家具、住居や町並みなどの比較的狭い居住環境から、都市、農地、里山などが適度に連携し、新鮮な大気と水、風景を備えた地域的環境、そして地球規模での環境保全とバイオマス資源利用による地球温暖化の防止など、関係する対象は非常に広範である。そこで教育研究の背景となる学問領域は、高度な自然科学はもとより、人文社会科学的観点も重要な意味を持つ。また研究手法も海外を含めたフィールド研究、精緻なラボラトリー研究、情報処理など多岐にわたる。

博士後期課程に進学また編入を希望する人には、研究の独創的展開や学際的展開を期待する。そしてまた自らの研究を客観的に評価できる広い視野や学力、後進を指導できる学識とリーダーシップ、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を習得する意欲と能力を有する人材を歓迎する。

【応用生命科学専攻】

応用生命科学専攻では、微生物から植物やヒトにわたる広い範囲の生物を対象とし、以下の観点から教育・研究をおこなう。

1. 生命現象を物理化学・有機化学・生化学・分子生物学を基にして理解し発展させる。
2. 微生物・植物・動物を対象とし、生物機能の共通性と多様性を理解し発展させる。
3. 研究を通して、研究アプローチの仕方、論理的思考を修得するとともに、独創性を養う。
4. 新たな発見・発明を応用研究に発展させ、研究の成果を社会に還元する。

教育においては積極的な自学・自習を尊重し、生命現象の原理の理解とともに、その原理に基づいて発酵・食品・化学工業・食料生産・環境保全・医療などの現場で生じる様々な課題を解決し、その成果を新しいバイオテクノロジーやバイオサイエンスとして展開できる研究者・技術者を育成する。

修士課程の人材に加え、独創性を持った研究によって国際的リーダーシップをとりえる研究者、生産現場で新規プロジェクトを立ち上げリーダーシップを発揮できる高度技術者の育成をめざす。修士課程修了と同等の専門学力をもち、研究に対して明確で強い動機と意欲を併せもった人材を募集する。

【応用生物科学専攻】

応用生物科学専攻は、農林生物学、水産学、畜産学及び熱帯農学等を統合した多様な研究領域からなっており、21世紀に直面するであろう資源生物、食料、健康、環境にかかわる新しい諸問題に対し、学際的かつグローバルに対応できる教育・研究拠点を構築することを基本理念としている。本専攻では、陸地ならびに海洋に生息する微生物から動植物にわたる多様な生物とそれを取りまく環境を対象に、それらの利用・創出・保存・保全について、分子から個体、さらには生態系レベルに至る幅広い視点から教育・研究を行い、従来の枠にとらわれない学際的な取り組みができる人材

を育成することを目標としている。

博士後期課程に進学あるいは編入を希望する人は、以下のような目標を達成すべく努力が求められる。

1. 課題解決能力はもちろん、大きな視野から課題を設定し、実行する能力を身につける
2. 独創的研究成果をあげると同時に高いコミュニケーション能力を身につけ、国際的な場でも臆することなく活躍できる。
3. 研究成果を幅広く社会に還元することに努め、農畜水産業やそれらの基礎となる学術の発展に大きく貢献することができる。

【地域環境科学専攻】

人類は地球上のそれぞれの地域に特有な自然環境に対応しながら生活している。地域環境科学専攻は、これからも人類が自然環境を形作る構成要素と共存しつつ、生産・生活活動を望ましい姿とともに発展させるための研究を志向している。そのために、生物・生態系の研究を行うグループと地域環境工学研究グループが相互に協力しながら、食料生産と環境保全の両面を視野に入れた学際的・国際的研究を行っている。

研究者として自立し、熱意を持って独創的な研究活動を行え、さらにさまざまな複合的な問題に対応できる幅広い知識と柔軟性をもつ人を求める。本専攻は、農学研究科の中で最も多様性の大きい専攻であり、それ故、総合的な知識や技術の習得だけでなく、将来それらをわが国だけでなく、世界の各地の応用現場で生かせることが出来る国際的視野を持ち、それを発揮できるコミュニケーションの能力を習得したい人を強く歓迎する。

【生物資源経済学専攻】

望ましい人類の発展は、世界の国家間のまた人間相互の協力や社会的・経済的な調整の仕組みに大きく依存する。現代社会では、めざましい科学・技術の進歩のなかで、先進国の富や食料過剰と発展途上国の貧困が併存するとともに、日本のように先進国でも危機的なほどに食料自給率が低下している国がある。そのなかで環境問題や地域社会問題、食品安全問題が発生している。20世紀に築かれた、科学、技術、資源の利用のあり方を決める経済思想や貿易をはじめとする国際的なルール、それにもとづく国内外の社会的、経済的、経営的な制度やシステムがそのような状態をもたらしており、現在、その根元的な見直しが求められている。本専攻は、経済学をベースに経営学、社会学、歴史学、政治学などの理論をもとに、このような制度およびシステムのかかえる問題の解明とあらたなシステムや政策の開発にあたることを課題としている。

【食品生物科学専攻】

食品にかかわる研究分野は益々広範かつ学際的になっている。食品に関連する産業規模の巨大化に加えて、食に内在する課題也多岐に涉っている。飢餓に直面する社会がある一方で、飽食が故に陥る疾病が蔓延する社会もある。わが国では、伝統的な食生活が崩壊の危機に瀕しており、また、食糧の自給率と安全性は緊急の課題である。国民の健康向上を目指して、医学、薬学とともに食品科学が重要な貢献をすべきである。

以上の諸課題の解決には、新たな食品研究基盤の構築が必要である。すなわち、食品のみを対象

とするのではなく、「人間と環境と食」の相互作用に関する深い理解が求められる。本「食品生物科学」専攻は、食にかかわる広範な問題を根源から捉え、対応できる人材育成とその基盤となる研究開発を目的として、平成 13 年 4 月に発足した。食品生物科学に関して、専門的教育と先端的な研究体制を整備して、教育・研究にあたっている。生命科学、生物学、有機化学、生化学、遺伝子生物学、食品化学、化学工学、酵素化学、物性科学、栄養学、健康科学、運動科学、免疫学、生理学、微生物・発酵学、味覚感覚学、実験心理学、動物行動学などの研究分野を体系化し、食に取り組むための新たな学問の構築を試みており、未来の研究をリードしていくことに重点をおいている。目的遂行のため、個別の特色をもつ「食品生命科学」、「食品健康科学」、「食品生産工学」の 3 講座を設置している。

「食品生物科学」に対して、高い理想と熱い情熱をもって挑戦しようとする、次のような学生を歓迎する。

1. 個別の課題解決能力に加えて、大きな視野から課題設定し、問題の解決能力を身につけることを目指す人
2. 独創的研究成果をあげるとともに高いコミュニケーション能力を身につけ、国際的な場での活躍を目指す人
3. 研究成果を社会に還元し、技術的、教育的見地から食品工業の発展に中心的な役割を担いたいと考えている人